おもいやり社会新聞

〈発行者〉
帯広市立緑丘小学校 5-1
小林 朱莉

おもいやりの心のバリアフリー

「バリア」とは障壁(かべ)という意味。バリアフリーとは様々な人が生活する上でバリアをなくすこと。多様な人のことを考えられない社会は心身障害がある人にとってバリアを生み出します。障害の有無に関わらず高齢者や、どんな立場でも安心して生活できるように思いやりの「バリアフリー」を広げる事が大切です。

社会生活の4つのバリア

物理的バリア

公共公道機関、道路、建物で移動に困る段差があるなど、利用者に移動面で困難をもたらすこと。

心のバリア

周囲からの心ない言葉、偏見や差別無関心など、障害のある人を受け入れないこと。障害のある人が生きにくくなってしまう。

制度のバリア

社会のルール、制度によって障害のある人が能力以前の段階で機会を奪われてしまうこと。例えば学校の入試や就職や資格試験などで障害があることを理由に受験や免許の付与を制限するなど。

文化・情報のバリア

障害や高齢などにより情報を得ることが難しくなること。目の不自由な人は目で見る情報は難しく、耳の不自由な人には音声情報は難しい。

あなたならこんな時どうしますか？

心のバリアフリーで大切なのはバリアを感じている人の身になって考え行動を起こすこと。自分の周りでバリアを感じている人がいたら、どのような工夫が必要か、障害のある人が利用しやすいように配慮することを意識しましょう。

「○○しましょうか」バリアがあって困っている人に気付いた時は「私が○○しましょうか」と声をかけてみましょう。

わからなければ、何ができるか「聞く」困っていそうだけれど、何に困っているのかわからない、という場合もあります。そのような場合は何かお困りですか「私にできることはありますか？」などと「聞いて」みることが大切です。

お店の段差の前で車いすの人が困っていた。

本から学ぶ「障害」

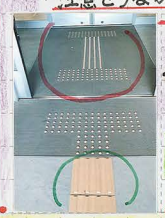
「わたしが障害じゃなくなる日」
脊髄性筋萎縮症の海老原さんの体験

障害について調べる中で一冊の本に出会いました。作者の海老原さんは脊髄性筋萎縮症という体の筋力が衰えていく難病で車いすを使用し学校生活を送り、今は人工呼吸器をつけて生活しています。海老原さんは障害を個性としてとらえ、不便はあるが決して特別ではなく不幸でもない と前向きに受け止めています。海老原さんの体験を聞きました。障害は私達の身近にあるもので、障害のある人が生きづらい社会を作り出しているのは私達自身なのだと気付かされました。障害があっても楽しくて生きやすい社会を作ること、それは障害のない人でも生きやすい社会なのだと思います。私達が変われば障害をなくすことが出来る。そんな未来を信じて本で感じた事をみんなにも伝えていきたいと思います。

まちのバリアフリー＆シンボルマーク

私のまちで見つけたバリアフリーの紹介！

①点字ブロック
目の不自由な人が安全に道を歩くために歩道や公共施設の床にしかれている。



②歩行器標式シール
高齢者や弱視の人の転倒防止のために階段の両端一段、一段に貼り、段差をはっきり識別するため。

③スロープ
車いすや段差を上るのが困難な人のために通路や出入口に設置している。

シンボルマークも発見
文字が分からない人にも分かりやすく場所をマークで表示している。

わたしの感想

学校の授業でユニバーサルデザインについて勉強し障害がある人の体験や考えに興味を持ち調べたことを新聞にまとめました。私達が何気なく生活している社会にはバリアをなくすための工夫がされている事を知りました。障害の有無に関わらずみんなが安心して生活できる社会を目指して私も「おもいやり」の心を持って生活したいと思います。

車いす専用の駐車場はスーパーや色々な場所にあります。

思いやり

市民プールで車いす用更衣室も見つけました！

思いやり